

尾道大学から 尾道市立大学へ

4月1日に公立大学法人に移行

尾道大学は4月1日に公立大学法人に移行し、名称も「尾道市立大学」に変わりました。そして、久保三丁目にある「尾道白樺美術館[尾道大学]」も名称を「尾道市立大学美術館」に改めました。

この機会に、大学の歴史や現状などについてご紹介します。



〈完成予想図〉手前が新しい校舎(E棟)

I 尾道市立女子専門学校の誕生

尾道市立大学の沿革を辿ると、昭和21年(1946)に設立された尾道市立女子専門学校まで遡ることができます。戦後の混乱期、高等教育機関の多くは都会にありましたが、若い女性が荒廃した都会で学ぶには、大きな不安がありました。戦後間もないこのような時期ではありましたが、市民の間に女学生のための学校を地元につくろうという機運が高まりました。こうして市民待望の女子専門学校が、久保小学校の校舎の一部を借りて開校しました。

II 教育制度改革と短期大学への昇格

その後、六三三四制(小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年)の教育制度改革が実施され、専門学校が制度上廃止されました。そのため、新制大学を設置すべく文部省に申請しましたが、施設等不備な点が多く、認可されませんでした。こうした事例が全国で多数発生したため、文部省は新たに短期大学の制度を導入しました。尾道市立女子専門学校も、直ちに短期大学への昇格手続きをとることにし、昭和25年(1950)、国文科単科の尾道短期大学が認可されました。当時の校舎は夜間定時制の尾道市立南高等学校の校舎を借りたものでした。

III 久山田町への移転

尾道短期大学の悲願は、独自の校舎を持つことでした。そんな折、久山田の水源池わきの市有地を活用する案が浮上し、昭和37年(1962)に現在地へ移転。校舎や図書館などの施設整備や教育内容の充実を図ってきました。

IV 尾道大学開学

一方、大学受験を迎える18歳人口は平成4年(1992)をピークに減少に転じ、全国的にも短期大学への志願率が年々減少してきたことから、4年制大学へ改組することになり、平成13年(2001)4月に、経済情報学部(経済情報学科)と芸術文化学部(日本文学科、美術学科)からなる2学部3学科の尾道大学が開学しました。

V 大学の法人化と今後

そしてこの度、明確な理念・目標のもとでより効率的かつ弾力的な大学運営を行うことによっていっそうの発展を図るため、法人化に向かって進むことを決め、今日1日に、大学の名称も「公立大学法人尾道市立大学」に衣替えして、新たな船出を迎えました。

尾道市立大学が今後さらに発展していくためには、より「開かれた大学」にしていくことが大切であり、国際交流や地域連携をいっそう進めていく必要があります。そのため、この4月に学内に国際交流センターを設置して国際交流を強力に進める体制を整備したほか、平成25年度(2013年度)の完成を予定している新しい校舎(E棟)に地域総合センターを配置して公開講座やワークショップ、公開授業等を開催し、より市民の皆さんに身近な「開かれた大学」にしていきます。

終戦直後の混乱と窮乏のなかで設立された女子専門学校が、短大を経て現在の大学へと発展してきました。教育に懸けた先人の想いを引き継ぎ、さらに発展させていくことが、尾道市立大学に課せられた使命であると考えています。

☎ 尾道市立大学(☎0848-22-8311)

3月29日現在の世帯数と人口 ()内は前年同期			
	住民基本台帳	外国人登録	総数
世帯数	63,486(63,361)		
男	69,581(70,083)	1,229(1,356)	70,810(71,439)
女	76,433(77,066)	564(551)	76,997(77,617)
計	146,014(147,149)	1,793(1,907)	147,807(149,056)

代表電話番号			
市役所	0848-25-7111	因島総合支所	0845-22-1311
水道局	0848-37-8700	御調支所	0848-76-2111
市民病院	0848-47-1155	向島支所	0848-44-0110
総合福祉センター	0848-22-8343	瀬戸田支所	0845-27-2211
		百島支所	0848-73-2701
		浦崎支所	0848-73-2001
		向東支所	0848-44-0210